

眼 科 学

1 構 成 員

	平成23年3月31日現在
教授	1人
病院教授	1人
講師(うち病院籍)	2人 (2人)
助教(うち病院籍)	4人 (2人)
助手(うち病院籍)	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	4人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	2人 (0人)
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	6人
合計	22人

2 教員の異動状況

堀田 喜裕 (教授)	(H12.5.1 ~ 現職)
佐藤 美保 (病院教授)	(H14.7.1 ~ 19.3.31 助教授 ; 19.4.1 ~ H22.12.31 准教授、H23.1.1 現職)
浅井 竜彦 (講師)	(H16.12.1 ~ H19.3.31 助手 ; H19.4.1 ~ 9.30 助教、H19.10.1 ~ 現職)
彦谷 明子 (講師)	(H21.4.1 ~ H23.1.31、H23.2.1 ~ 現職)
望月 美奈 (助教)	(H21.2.1 ~ H23.1.31)
細野 克博 (助教)	(H22.1.1 ~ 現職)
東芝 孝彰 (助教)	(H20.4.1 ~ 現職)
並木 文子 (助教)	(H21.7.1 ~ 現職)
永瀬 康規 (助教)	(H23.2.1 ~ 現職)

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	6編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	15.2
(2)論文形式のプロシーディングズ数	0編

(3)総説数(うち邦文のもの)	16編 (16編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	6編 (6編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	2編 (1編)
そのインパクトファクターの合計	1.07

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hosono K, Noda S, Shimizu A, Nakanishi N, Ohtsubo M, Shimizu N, Minoshima S (2010) YPEL5 protein of the YPEL gene family is involved in the cell cycle progression by interacting with two distinct proteins RanBPM and RanBP10. *Genomics* 96: 102-111.
2. Negishi T, Hikoya A, Isoda H, Tsuchiya Y, Sawada M, Hotta Y, Sato M (2010) Magnetic resonance imaging of the medial rectus muscle of patients with consecutive exotropia after medial rectus muscle recession. *Ophthalmology* 117(10):1876-1882.
3. 藤田由美子, 鷺山愛, 浅野麻衣, 稲垣理佐子, 根岸貴志, 澤田麻友, 彦谷明子, 堀田喜裕, 佐藤美保 (2011) 斜視手術の評価における Newcastle Control Score の意義 . *眼臨紀* 4(1): 68-70.
インパクトファクターの小計 [8.82]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Ohtsubo M, Sato M, Hikoya A, Hosono K, Minoshima S, Hotta Y (2010) Case of a Japanese patient with X-linked ocular albinism associated with the *GPR143* gene mutation. *Jpn J Ophthalmol* 54: 624-626.
2. Nakanishi H, Ohtsubo M, Iwasaki S, Hotta Y, Mizuta K, Mineta H, Minoshima S (2010) Hair roots as an mRNA source for mutation analysis of Usher syndrome-causing genes. *J Hum Genet* 55: 701-703.
3. Nakanishi H, Ohtsubo M, Iwasaki S, Hotta Y, Takizawa Y, Hosono K, Mizuta K, Mineta H, Minoshima S (2010) Mutation analysis of the *MYO7A* and *CDH23* genes in Japanese patients with Usher syndrome type 1. *J Hum Genet* 55: 796-800.
インパクトファクターの小計 [6.37]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 佐藤美保 (2010) 急性結膜炎 . *小児科臨床* 63(4) : 887-889.
2. 佐藤美保 (2010) 小児の斜視・弱視 長期治療のポイント . *眼科ケア* 12: 65.
3. 佐藤美保 (2010) 弱視斜視診療のトレンド . *あたらしい眼科* 27: 1633-1634.
4. 佐藤美保 (2010) 弱視治療のエビデンス . *あたらしい眼科* 27: 1641-1643.
5. 佐藤美保 (2011) 間欠性外斜視の評価と分類 . *日本の眼科* 82: 14-18.
6. 西村香澄 (2010) 眼窩外傷と斜視 . *あたらしい眼科* 27: 1677-1680.

7. 土屋陽子 (2010) 小児の弱視 長期治療のポイント . 眼科ケア 12: 72-81.
8. 望月美奈, 浅井竜彦, 中神哲司, 堀田喜裕 (2010) 浜松医科大学眼科における全層角膜移植の成績 . 静岡県眼科医会報 8-12.
9. 稲垣理佐子 (2010) 写真で手順をシュミレーション 眼位・眼球運動検査 . 眼科ケア 12: 9.
10. 藤田由美子 (2010) マドックスダブルロッドテスト . 眼科ケア 12: 22-25.
11. 鷺山愛 (2010) Hess 赤緑試験 . 眼科ケア 12: 30-33.
12. 浅野麻衣 (2010) 注視野検査 . 眼科ケア 12: 34-38.
13. 根岸貴志 (2010) 斜視 . 眼科手術 23: 197-200.
14. 根岸貴志 (2010) 続発斜視の治療方針 . あたらしい眼科 27: 1665-1670.
15. 根岸貴志 (2011) 斜視手術の長期合併症 - 続発斜視 -. 眼科手術 24: 49-52.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 西本博, 栗原淳, 神部友香, 根岸貴志 (2010) 児童虐待による頭部外傷の臨床 - 特に小児脳神経外科医と神経眼科医との連携の重要性 -. 神眼 27(2): 151-158.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 堀田喜裕 (2009) 色覚異常はなぜ男性に多いのか? [根木昭編 眼のサイエンス 視覚の不思議 228-229], 文光堂、東京 .
2. 堀田喜裕 (2010) 色覚異常 [高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢監修 六訂版 家庭医学大全科 2747], (株) 法研、東京 .
3. 堀田喜裕 (2010) 網膜色素変性 [高久史磨, 猿田享男, 北村惣一郎, 福井次矢監修 六訂版 家庭医学大全科 2747-2748], (株) 法研、東京 .
4. 佐藤美保 (2010) 眼球を牽引するだけでは、斜筋の Forced duction test の正確な評価ができない [山下英俊, 谷原秀信編 眼科検査のグノーティ・セアウトン 29-30], (株) シナジー, 東京 .
5. 佐藤美保 (2010) 小児眼底疾患 [山口徹, 北原光夫, 福井次矢総編集 今日の治療指針 私是这样治療している 1254-1255], 医学書院、東京 .
6. 青島明子, 佐藤美保 (2010) 特殊眼鏡処方 ロービジョンの眼鏡処方 [所 敬, 梶田雅義編 すぐに役立つ臨床で学ぶ眼鏡処方の実際 58-66], 金原出版、東京 .

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Sawada M, Sato M, Hikoya A, Wang C-X, Minoshima S, Azuma N, Hotta Y (2011) A case of aniridia with unilateral Peters anomaly. J AAPOS 15(1) 104-106.
2. 宮道大督, 浅井竜彦, 小出健郎, 堀田喜裕 (2010) 両眼に脈絡膜新生血管を合併した原田病の1例 . 臨眼 64(9) 1599-1603.

4 特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	1件

1. EYS 遺伝子の変異を検出するためのプライマー、プローブ、マイクロアレイ、及び、これらを備える検出キット、並びに、網膜色素変性症原因遺伝子変異の検査方法、網膜色素変性症への遺伝的感受性の検査方法 細野克博 堀田喜裕 特願 2010-294236 平成 22 年 12 月 28 日 国内

5 医学研究費取得状況

	平成22年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (25万円)
(2) 厚生労働科学研究費	3件 (450万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1件 (150万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	65件 (1601万円)

(1) 文部科学省科学研究費

堀田喜裕 (分担者) 動物モデルを用いた加齢黄斑変性の罹患感受性候補遺伝子の同定と遺伝子診断への応用 10 万円

細野克博 (分担者) 動物モデルを用いた加齢黄斑変性の罹患感受性候補遺伝子の同定と遺伝子診断への応用 10 万円

細野克博 (分担者) 緑内障の分子機構追及：オブチニューリン結合蛋白の in utero 機能抑制解析 5 万円

(2) 厚生労働科学研究費

堀田喜裕 (分担者) 厚生労働科学研究費補助金 (難治疾患克服研究事業) 小眼球による視覚障害の原因を特定するための疫学調査と診断・治療基準の創成 200 万円

佐藤美保 (分担者) 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患研究事業) 先天白内障の原因究明と診断治療基準の創生に関する研究 150 万円

佐藤美保 (分担者) 厚生労働科学研究費補助金 (感覚器障害研究事業) 未熟児網膜症の新規手術法開発後の治療プロトコルの標準化に関する研究 100 万円

(3) その他省庁からの研究費

佐藤美保 (分担者) 成育医療研究費 重症未熟児網膜症の病態解明と治療に関する研究 150 万円

(6) 奨学寄附金その他（民間より）

細野克博（代表者） 浜松医科大学平成 22 年度若手研究プロジェクト 新規網膜色素変性原因遺伝子 EYS(Eyes Shut Homolog) のゲノム構造解析及び浜松医大で収集された本邦症例の変異解析、70 万円

稲垣理佐子（代表者） 浜松医科大学平成 22 年度社会貢献事業支援費 視覚障害の方との交流 10 万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	14件
(2) シンポジウム発表数	7件	3件
(3) 学会座長回数	2件	5件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	3件	12件
(6) 一般演題発表数	8件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等のシンポジウム発表

Sato M: Surgery for superior oblique palsy, WOC 2010 ISA symposium, Berlin, 平成 22 年 6 月 7 日

Sato M: What's new in amblyopia, The 25th APAO Congress AAPOS Symposium, 北京, 平成 22 年 9 月 17 日

Sato M: Can we operate XT with hemianopsia? The XIth Meeting of the ISA, Istanbul, 平成 22 年 9 月 24 日

Sato M: A and V patterns, The 26th APAO Congress APSPPOS Symposium, Sydney, 平成 23 年 3 月 21 日

Sato M: Management of difficult amblyopia, The 26th APAO Congress, Sydney, 平成 23 年 3 月 23 日

Sato M: Cyclic esotropia, The 26th APAO Congress, Sydney, 平成 23 年 3 月 24 日

Minoshima S, Hosono K, Ohishi K, Yamamoto S, Yamaguchi Y, Kudoh J, Shimizu N, Hotta Y: Establishing a mouse cell line from a tumor developed with SV40 Large T antigen driven by a photoreceptor-specific gene promoter. The 10th Kyungpook- Hamamatsu Joint Medical Symposium Hamamatsu Meeting, Hamamatsu, 平成 22 年 9 月 17 日

4) 国際学会・会議等での座長

Sato M: 第 25 回 APAO Meeting, Sydney, 平成 23 年 3 月 21 日

Sato M: 第 25 回 APAO Meeting, Sydney, 平成 23 年 3 月 24 日

5) 一般発表

口頭発表

Hotta Y, Hosono K, Nojima K, Zhao Y, Toshiba T, Asai T, Kato M, Minoshima S: Clinical features of a Japanese patient with Bothnia dystrophy, ISGEDR 2010, Bengaluru, 平成 23 年 1 月 15 日

Hosono K, Wang C-X, Nakanishi N, Hotta Y, Minoshima S: Fine analysis of the deletion in red/green opsin genes and the upstream locus control region (LCR) found in two Japanese families with blue cone monochromacy (BCM), ISGEDR 2010, Bengaluru, 平成 23 年 1 月 16 日

Negishi T, Nishimura K, Hikoya A, Sawada M, Hotta Y, Sato M: Consecutive cyclic esotropia associated with insertion abnormality, The 2010 Pre-AAO Pediatric Ophthalmology and Strabismus Day, Chicago, 平成 22 年 10 月 15 日

Negishi T, Sato M: Esotropia with hypertropia with severe restriction treated with reverse Yokoyama procedure, The 26th APAO Congress, Sydney, 平成 23 年 3 月 24 日

ポスター発表

Negishi T, Hikoya A, Tsuchiya Y, Sawada M, Hotta Y, Sato M: A case of superior oblique palsy caused by endoscopic paranasal sinus surgery, WOC 2010, Berlin, 平成 22 年 6 月 5 日

Sawada M, Sato M, Hikoya A, Wang C-X, Minoshima S, Azuma N, Hotta Y: A case of aniridia with a unilateral lens malposition, WOC 2010, Berlin, 平成 22 年 6 月 8 日

Asano M, Fujita Y, Washiyama M, Inagaki R, Negishi T, Sawada M, Hikoya A, Hotta Y, Sato M: Binocular visual field changes in patients with acquired homonymous hemianopia and exotropia, The XIth Meeting of the ISA, Istanbul, 平成 22 年 9 月 22 日

Negishi T, Katori N, Nishimura K, Sawada M, Hikoya A, Hotta Y, Sato M: Two cases of isolated superior oblique palsy caused by endoscopic sinus surgery, The XIth Meeting of the ISA, Istanbul, 平成 22 年 9 月 22 日

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

堀田喜裕 第 1 回静岡網膜硝子体研究会 8 月、静岡

2) 学会における特別講演・招待講演

堀田喜裕 (2010) 眼科における遺伝子診療, 第 122 回広島県眼科医会講習会, 11 月, 広島

佐藤美保 (2010) 学童期における斜視・弱視マネジメント, 平成 22 年度静岡県眼科医会総会, 4 月, 静岡

佐藤美保 (2010) EBM - 弱視治療のグローバルガイドライン, 第 114 回日本眼科学会総会, 4 月, 名古屋

佐藤美保 (2010) 弱視・健診, 第 22 回日本小児眼科学会講習会, 7 月, 東京

佐藤美保 (2010) 問欠性外斜視の手術, 大阪眼科手術の会, 11 月, 大阪

佐藤美保 (2010) 眼鏡レンズのデザインと眼鏡処方ツボ 小児の眼鏡について, 第 64 回日本臨床眼科学会, 11 月, 神戸

佐藤美保 (2010) 誰も教えてくれなかった外斜視の診断と治療法, お茶の水眼科先進医療セミナー, 11 月, 東京

佐藤美保 (2010) 斜視弱視最近の話題, 東三河眼科サークル, 11 月, 豊橋

佐藤美保 (2010) 上斜筋麻痺の診断と治療, 第 51 回日本視能矯正学会, 11 月, 神戸
 佐藤美保 (2010) 斜視弱視アップデート, 第 2 回北勢眼科セミナー, 12 月, 四日市
 佐藤美保 (2011) いつまでもよく見るために, 浜松医科大学公開講座, 1 月, 浜松
 佐藤美保 (2011) 外斜視、とやま眼科学術講演会, 2 月, 富山
 浅井竜彦 (2011) 角膜内皮移植 (DSAEK) の実際, 参天製薬社内勉強会, 3 月, 浜松
 稲垣理佐子 (2010) 視覚障害の方との交流、平成 22 年度雄踏小学校講習会, 11 月, 浜松

3) シンポジウム発表

堀田喜裕、近藤峰生、高橋政代、中村誠 (2010) インストラクションコース「眼科診療に必要な網膜変性の知識－診療スタンダード 2010-」, 第 64 回日本臨床眼科学会, 11 月, 神戸
 佐藤美保 (2010) 小児の眼鏡処方ノウハウ, 第 46 回日本眼光学学会, 9 月, 横浜
 佐藤美保、根岸貴志、杉山能子、木村亜紀子、矢ヶ崎悌司 (2010) インストラクションコース「小児眼科・斜視弱視外来入門 - どんと来い、3 歳児! 」, 第 64 回日本臨床眼科学会, 11 月, 神戸

4) 座長をした学会名

堀田喜裕 第 114 回日本眼科学会
 第 64 回日本臨床眼科学会
 佐藤美保 第 114 回日本眼科学会
 第 66 回日本弱視斜視学会 第 34 回日本小児眼科学会合同学会
 第 64 回日本臨床眼科学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

堀田喜裕 ISGEDR 理事
 堀田喜裕 日本眼科学会 評議員 総集会プログラム委員会評価委員長
 堀田喜裕 日本神経眼科学会 評議員
 堀田喜裕 日本遺伝子診療学会 評議員
 堀田喜裕 静岡県アイバンク 理事長
 堀田喜裕 静岡県小児眼科研究会 代表
 佐藤美保 国際斜視学会 副理事長
 佐藤美保 アジア太平洋小児眼科学会 副理事長
 佐藤美保 日本眼科学会 評議員
 佐藤美保 日本眼科手術学会 理事
 佐藤美保 日本小児眼科学会 理事
 佐藤美保 日本弱視斜視学会 常任理事
 佐藤美保 日本眼光学学会 常任理事 学会誌編集委員
 浅井竜彦 静岡県眼科医会 理事
 浅井竜彦 遠州眼科医会 幹事

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	1件	2件

(1) 国内の英文雑誌の編集

佐藤美保 JJO (日本眼科学会)、編集委員、PubMed/Medline 登録の有り IF 1.27

(2) 外国の学術雑誌の編集

堀田喜裕 Ophthalmic Genetics (米国) Editorial Board, Pub Med/Medlin 登録あり IF 1.41

佐藤美保 J AAPOS (米国小児眼科斜視学会、米国) Editorial Board, Pub Med/Medlin 登録あり
IF 1.07

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

堀田喜裕 Jpn J Ophthalmol (日本) 9回
Ophthalmic Genetics (米国) 4回

佐藤美保 Jpn J Ophthalmol (日本) 12回
J of AAPOS (米国) 8回
Am J Ophthalmol (米国) 3回
IOVS (米国) 1回

9 共同研究の実施状況

	平成22年度
(1) 国際共同研究	2件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

張勁松、王春霞 (中国医科大学眼科) 網膜色素変性患者の遺伝子診断システム構築
Si-Yeol Kim、朴東浩 (慶北大学校医科大学眼科) 網膜色素変性患者の遺伝子診断システム構築

(2) 国内共同研究

寺崎浩子、近藤峰生、上野真治 (名古屋大学医学部眼科) 眼科領域の遺伝性疾患の遺伝子型と表現型の関連についての研究

堀口正之、谷川篤宏 (藤田保健衛生大学医学部眼科) 眼科領域の遺伝性疾患と先天異常の分子遺伝学的研究

東 範行 (国立成育医療センター眼科) 小児・若年者の難治性眼疾患の原因と治療に関する研究
視覚科学技術コンソーシアム (Vision Science & Technology: VSAT) 片眼白内障 手術患者における両眼情報統合過程の解明と臨床応用

高橋政代、石上智愛 (理化学研究所) 網膜色素変性患者の遺伝子診断システム構築
山本修一、萩原章 (千葉大学眼科) 網膜色素変性患者の遺伝子診断システム構築

(3) 学内共同研究

蓑島伸生（光量子医学研究センター）眼科領域の遺伝性疾患の分子遺伝学的研究

10 産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

11 受賞

(3) 国内での授賞

根岸貴志：第 11 回国際斜視学会（ISA）若手支援プログラム賞 平成 22 年 8 月

浅野麻衣：第 11 回国際斜視学会（ISA）若手支援プログラム賞 平成 22 年 8 月

根岸貴志：Alcon Japan Hida Memorial Award、平成 22 年 11 月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 眼科領域の遺伝性疾患の遺伝子型と表現型の関連についての研究

（目的）眼科領域の遺伝性眼疾患について遺伝子異常と臨床像の関連を明らかにする。

（概要）わが国でみられる眼白子症はほとんどが X 連鎖性の Nettleship-Falls 型であり、*GPR143* 遺伝子異常によることが知られているが、わが国での遺伝子異常の報告はない。眼白子症と確定診断するために遺伝子検査を行い、原因と考えられる *GPR143* 遺伝子異常を認めた。症例は 4 カ月男児、生後 3 カ月で眼と皮膚の色と、眼球振盪が気になり、近くの病院の小児科を受診し、典型的ではないが白子症による黄斑低形成と言われた。眼所見が強いので、5 か月時に当院眼科を受診した。両親が遺伝子診断を強く希望したので、十分なインフォームドコンセントの上で、両親と患児の末梢血 DNA から *GPR143* 遺伝子を増幅し塩基配列を決定した。*GPR143* 遺伝子のエクソン 5 とイントロン 5 の境界にスプライス異常 (c.658+1G>A) を認め、父親は正常、母親は heterozygote であった。遺伝子産物の第 5 膜貫通部位以降の構造異常によるメラノソーム合成の低下が示唆される。また、c.251-135C>T と、c.767+10C>G という、すでに報告のある 2 つの多型も認めた。遺伝子検索結果に基づく遺伝カウンセリングを施行した。

（研究担当者）堀田喜裕、佐藤美保、彦谷明子、細野克博、王春霞、澤田麻友

2. わが国におけるアッシャー症候群の遺伝子解析

（目的）わが国のアッシャー症候群における *CDH23*、*MYO7A* 遺伝子異常を明らかにする。

（概要）わが国のアッシャー症候群のタイプ 1 患者 5 人に対して *CDH23*、*MYO7A* 遺伝子を検査し、原因遺伝子異常を明らかにした。先天聾のアッシャー症候群タイプ I の症例の家系は、近親婚が原因で兄妹が重篤な疾患に罹患していた。このうち妹は、先天聾で、右視力 0.1(0.2)、左視力 0.1(0.3)、眼球振盪を認めた。視野は、わずかな周辺視野と、右中心 7°、左中心 8° の残存視野しかない。この家系の患者は、*CDH23* 遺伝子のエクソン 44 から 46 までの 5078 塩基の欠失をホモ接合体で認めた。

(研究担当者) 堀田喜裕 細野克博

3. 間欠性外斜視に関する評価方法の研究

(目的) 間欠性外斜視の評価方法の評価。

(概要) 間欠性外斜視のコントロール状態を評価するには、定性的な方法が主に用いられ、定量的に評価することは困難であった。New Castle Control Score は間欠性外斜視のコントロール状態を数値で評価する方法である。この方法を用いて、我々の施設でおこなっている間欠性外斜視を評価し、その定量性について検討した。その結果、本スコアで4点以上であると、斜視手術の適応となることが多いのを確認した。本スコアを用いることによって、間欠性外斜視の手術成果の検討が定量的にできることが明らかになった。

(研究担当者) 佐藤美保、藤田由美子、鷺山愛、浅野麻衣、稲垣理佐子、澤田麻友、根岸貴志、彦谷明子

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. わが国ではじめての *GPR143* 遺伝子異常を報告した。
2. 無虹彩と、Peter 奇形を左右に認める症例を報告した。
3. わが国ではじめての *CDH23* 遺伝子異常の臨床像を報告した。
4. 間欠性外斜視の評価方法を報告した。

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 眼白子症、無虹彩において、遺伝子異常と臨床像の関係で新知見を得た。
2. New castle control score を用いることで、間欠性外斜視の治療成果の評価が可能となる。

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 堀田喜裕：献眼者に厚労大臣感謝状 沼津朝日新聞 平成 22 年 10 月 26 日
2. 佐藤美保：いつまでもよく見えるために 静岡新聞 平成 23 年 1 月 23 日
3. 浅井竜彦：移植新手術県内でも 静岡新聞 平成 22 年 10 月 20 日
4. 稲垣理佐子：目隠しで食事「大変」 中日新聞 平成 22 年 11 月 17 日
5. 素晴らしい浜松医大 郷土新聞 平成 22 年 8 月 27 日